



授業構想シート
授業構想チェックシート
Rシート

実施時期 **令和 4年 5月 ~ 6月** 学部 **小学部**

教科 **算数** グループ **D** 指導領域 **数と計算**

実態 実態について

- 個別の教育支援計画を確認（その子どもに必要なこと？） マーク個別の指導計画で領域を確認
- 知識を段階化した一覧を実態表として使用し、実態を把握
- 「できない」ことは問題でなく、つまずきの原因が重要
 - (1) この題材で達成が可能？【可能性】
 - (2) 現在の生活で必要は？【必要性】
 - (3) 将来の豊かな生活につながる価値は？【価値性】

知識及び技能

対象児:K

- ・繰り上がりのない2位数+1位数、2位数+2位数の加法を暗算で答えを求めることができる。
- ・繰り下がりのない2位数-2位数の減法を筆算を用いて計算することができる。
- ・繰り上がりのある2位数+1位数の加法を暗算で答えを求めることができる。
- ・繰り上がりのある2位数+2位数の加法の答えを暗算で求めるが間違えることが多い。
- ・繰り下がりのない2位数-1位数の減法を暗算で答えを求めることができる。
- ・繰り下がりのある2位数-1位数の減法を暗算で答えを求めることができる。
- ・繰り下がりのある2位数-2位数の減法の答えを暗算で求めるが間違えることが多い。

思考力・判断力・表現力等

- ・「 $37 + 49$ は何ですか」など繰り上がりのある2位数+2位数の問題を解く時「76」と答える。
- ・「67円の18円引きは何円ですか」などの繰り下がりのある2位数-2位数の文章問題を解く時、減法を用いて計算をする姿が見られる。
- ・複数の商品の値段を足す時、足し算で計算をするが、途中で「わからない」という。

学びに向かう力・人間性等

- ・ゲームや遊びの得点を出す場面で、自ら加法や減法を用いて計算しようとする姿が見られる。

学習指導要領の扱う段階の目標と内容

小学校2年 A(2)加法、減法
(ア)2位数の加法及びその逆の減法の計算が、1位数などについての基本的な計算を基にしてできることを理解し、それらの計算が確実にできること。また、それらの筆算の仕方について理解すること。

【どうなってほしいかを三つの柱で整理】

<p>【何を学ぶ? (知識)】 ・加法や減法の仕方と数量の変化とのつながり</p>	<p>【〇と判断できる発言や姿】 ・正しい順序で筆算をし、正しい答えを求めることができる</p>	<p>【大まかにどう段階化する? (詳細は題材計画で)】 ・2位数+1位数または2位数(ともに繰り上がりなし)の筆算→2位数+2位数(繰り上がりあり)の筆算→2位数-1位数(繰り下がりあり)の筆算→2位数-2位数(繰り下がりあり)の筆算 ・加法や減法で筆算をする時、具体物を使用→マス目紙の(補助線有)→マス目紙と支援を段階的に減らしていく</p>
<p>【どう学ぶ? (活動)】 ①計算を解いた後に、なぜ筆算を用いたか(用いなかったか)やその計算方法を問う ②お店で必要な物を買物する場面で、合計金額などの筆算を用いることで正確に計算ができる問題と暗算でもできる問題をランダムに出題する</p>	<p>【〇と判断できる発言や姿】 ①筆算を用いることで正確に計算できる問題の時「頭で計算できなかったから筆算を使いました」や「正確に(早く)」計算できるから、暗算でできる計算の時「頭の中で計算できたから」などと答える ②問題に応じて暗算をしたり、筆算を用いたりして正しい答えを求め、計算の仕方を選択した理由を説明する</p>	<p>【大まかにどう段階化する? (詳細は題材計画で)】 ・筆算を用いることで正確に計算ができる問題のみ→筆算を用いることで正確に計算ができる問題と1位数+1位数の暗算でできる問題→筆算を用いることで正確に計算ができる問題のみ+暗算でもできる2位数+2位数の問題と、問題配列を段階化する</p>
<p>【望む姿勢や姿は?】 ・日常生活に近い場面で筆算を用いる必要がある問題を解く時、筆算を用いて計算し、繰り返し正しい答えを求める</p>	<p>【どう引き出す?】 ・買い物の場面を設定し、日常生活に結びつけることができるようにする ・筆算を用いて早く正確に計算できた時に、筆算の用いることの良さを知らせる</p>	

【教材は?】 【教材名: FUTOKUKART(日本1周計算旅行に出かけよう)】

【仕組み】

- ・見通しや達成感、意欲をもてるように、都道府県を地方ごとに1つずつコマを進めながら名物料理の食材を集め、料理を完成させる問題を扱う。
- ・食材の個数や値段、値引き額などの様々な計算ができるようにした。



【全 10 時間をどう使う? (題材計画)】

知 技	【一次】1	【二次】2~6					【三次】7・8
	繰り上がりや繰り下がりのある加法や減法の筆算をすることに課題をもつ	2位数+2位数(繰り上がりなし)の計算を筆算とする	2位数+1位数(繰り上がりあり)の計算を筆算とする	2位数+2位数(繰り上がりあり)の計算を筆算とする	2位数-1位数(繰り下がりあり)の計算を筆算とする	2位数-1位数、2位数-2位数(繰り下がりあり)の計算を筆算とする	
思 判 表		①文章問題を解いた後「計算の仕方を説明してください」と尋ねられた時、教師に計算の過程を説明する			②金額を求める問題で筆算を用いて計算すればよいことを判断して計算をする		
主 体 的 な 姿	<input checked="" type="checkbox"/> 正解するまで問題に取り組む <input checked="" type="checkbox"/> 答えが合っているか確かめようとする <input checked="" type="checkbox"/> がんばったところを発表する						

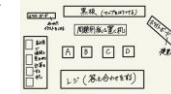
【めあて達成のための工夫は? (場面設定・教具・働きかけなど)】

【工夫点】

- ①名物料理を作るために必要な複数の食材を買った時の合計金額、値引き後の値段を扱った
- ②問題を取る場所、計算する場所(お店)、答え合わせの場所(レジ)に分けて、周回動線にすることを設定した
- ③加法や減法で筆算をする時、具体物を使用→マス目紙の(補助線有)→マス目紙と支援を段階的に減らした
- ④答え合わせの時に、どのように計算したか説明する時間を設けた

【意図(ポイント)】

- ①繰り上がり(下がり)のある加法・減法や暗算でできる加法・減法などの計算ができるように
- ②試行数を確保するために、どこで何をすればよいかわかりやすくした



【1時間をどう展開する?】

学習活動	意図と働きかけ(主発問・みとめ・タイミングなど)	【板書・配置・教具など】
導入	<ul style="list-style-type: none"> ○本時の学習に意欲をもてるようにするために、これまで集めてきたイラストを提示し、前時にできたことやよかった姿を認める ○前時で取り組んだ学習を思い出すことができるように、前時で取り組んだプリントを提示し、計算の仕方を振り返る 	
個別学習	<ul style="list-style-type: none"> ○計算の仕方と数量との変化のつながりがわかるように、具体物や反具体物を用いて計算することを伝え、できた時に筆算を用いることで早く正確に計算できることを意味づける 	
FUTOKUKARTゲーム	<ul style="list-style-type: none"> ○児童が計算方法を正しく理解しているか確かめるために、「どのように計算しましたか」と尋ねる 	【改善】 ・個別学習の時間が長くなりすぎることがあったため、実態に応じた課題数を用意する ・筆算の必要性を感じることができるよう、筆算を用いなくても計算できる問題を取り入れる
振り返り	<ul style="list-style-type: none"> ○学習の成果を振り返り、達成感を感じることができるように、頑張っていたことを認める ○次時への意欲がもてるように、次回の計算旅行の行き先を確認して授業を終える 	

【評価】

開始時の姿(実態・課題)	指導・支援	結果
2位数同士の繰り上がりのある加法や2位数同士の繰り下がりのある減法をする時、暗算で行い間違っていた。	具体物を用いることで、計算の仕方と数量の変化のつながりがわかるようにする。筆算と暗算を使い分けることができるように、暗算でできる問題も出すようにする。	2位数同士の繰り上がりのある加法や繰り下がりのある減法の計算をする時、筆算で計算し、正しい答えをとめることができるようになった。また、暗算ですぐに答えが求められない時に筆算を用いて計算する姿が見られた。

① 5/25 欠なし	【うまくいかなかったこと】 ・課題プリントと解き終えたプリントが混ざってしまい児童にとって分かりづらかった
【うまくいったこと】 ・積極的に問題に取り組んでイラストを集めながらコマを進める姿が見られた ・繰り上がりなしの筆算(2位数+2位数・2位数+1位数)ができた	
【気づいたこと】 ・課題プリントを取る場所と置く場所を分けていなかった ・答えを児童ごとに準備して、それぞれで答え合わせできるようにする ・繰り上がりなしの筆算(2位数+2位数・2位数+1位数)ができたため、次回から繰り上がりの問題に取り組むようにする	
主・対で深い学びの実現に向けた改善 ・イラストの裏に答えを載せることで、児童が自分で正誤判断できるようにする ・次回から繰り上がりの問題に取り組むようにする	
② 5/27 欠なし	【うまくいかなかったこと】 ・筆算で正しく計算できていたが、その意味を理解しているかを確かめる働きかけができなかった
【うまくいったこと】 ・繰り上がりありの筆算(2位数+1位数)ができた	
【気づいたこと】 ・筆算の答えを具体物を用いて、操作しながら確かめる場面やどのように計算したか説明する場面が必要である。 ・教材の場面設定が周回する同線にすることで、どこで何をするかわかりやすくなった	
主・対で深い学びの実現に向けた改善 ・2位数+2位数の繰り上がりのある筆算でも引き続き、具体物やワークシートを用いて段階的な支援を行う。 ・答え合わせの時に、答えがあっていることだけではなく、筆算の意味が理解できているか確かめるために、具体物や計算ボードを使って計算の過程を説明する場面を設ける	
③ 5/31 欠なし	【うまくいかなかったこと】 ・机に顔を伏せ、途中で課題に取り組むのをやめる姿が見られた ・問題を見る前に筆算の線や記号を書いていた
【うまくいったこと】 ・具体物を用いて、筆算の意味を説明することで、繰り上がりのある計算を筆算ですることができた	
【気づいたこと】 ・課題量が多かった ・すべての問題を筆算で行おうとしていた	
主・対で深い学びの実現に向けた改善 ・暗算できる問題を混ぜて、問題配列を工夫する。	
④ 6/3 欠1名	【うまくいかなかったこと】 ・児童の待ち時間が長くなってしまった
【うまくいったこと】 ・具体物を使用することで、繰り下がりのある減法の問題を筆算で正しく計算することができた	
【気づいたこと】 一人の児童を指導している間、もう一人の児童の待ち時間が長くなった	
主・対で深い学びの実現に向けた改善 ・待ち時間に別の問題を提示したり、プリント1枚当たりの問題数を増やしたりする	

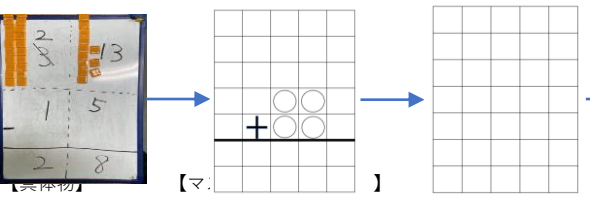
⑤ 6/7 欠なし	【うまくいかなかったこと】 ・展開と発展の時の課題にあまり変化がなかった
【うまくいったこと】 ・具体物を使用することで、90-22などの被減数の1の位が0の計算も正しく筆算で計算することができた	
【気づいたこと】 ・式を見て計算する問題であった。 ・発展の活動の時にプリントの問題を解くだけでなく、具体物进行操作したり、2位数同士の加法減法を使う状況(買い物)を設定したりする	
主・対で深い学びの実現に向けた改善 ・日常生活での場面を想定して活動をする	
⑥ 6/9 欠なし	【うまくいかなかったこと】 ・仕組みが理解できず課題になかなか取り組むことができない児童がいた ・どの問題も暗算でしようとする姿が見られた
【うまくいったこと】 ・暗算で計算をして間違えた時に、自ら筆算で計算をし直す様子が見られた。その後も、繰り上がりや繰り下がりの問題の時に筆算で計算をするようになった	
【気づいたこと】 ・発展場面でプリント問題を解き進める教材から、お店に買い物へ行き金額を計算する教材に変えたため	
主・対で深い学びの実現に向けた改善 ・仕組みを変える際は実際に教師が手本を見せたり、一緒に取り組んだりしながら丁寧に伝える ・筆算を使うよさを理解するための認めや賞賛を行う	
⑦ 6/13 欠2名(KL)	【うまくいかなかったこと】
【うまくいったこと】	
対象児欠席	
【気づいたこと】	
主・対で深い学びの実現に向けた改善	
⑧ 6/14 欠0	【うまくいかなかったこと】 ・活動が筆算の計算をするだけになってしまった
【うまくいったこと】 ・必要に応じて筆算で答えを求めることができるようになった。	
【気づいたこと】 ・文章問題を取り入れていなかった	
主・対で深い学びの実現に向けた改善	

実践のポイント

【計算の仕方がわかるための工夫】

・筆算の過程と数量の変化とのイメージが結びつくように、具体物进行操作するスペースを設け、具体物进行操作しながら計算を進めるようにした

具体物→マス目紙(補助線あり)→マス目紙→支援なしのように段階的に支援を減らしていった。



支援なし

【筆算の必要性やよさを感じるための工夫】

筆算の必要性を感じ、自ら筆算を使う判断ができるようにするために、暗算でできる問題を問題配列の中に取り入れた後、筆算を使って計算することで、早く正しく答えを求めることができることを意味づける

働きかけについて (HOW TO)

- 自ら考え、判断して行動する手助けをするためのもの
- 活動「開始時」「途中」「つまずき」「終了時」を想定
- 誘い、示範例示、助言、説明、問いかけ、盛り上げ、賞賛、励まし、認め、意味づけなどを行う
- 子どもに合わせた伝わりやすいことばや提示
- 抑揚や身振り、表情、子どもの好きなものなど工夫
- つまずきに対して答えでなく段階的な働きかけ
- 課題遂行につながる効果的なことばかけ
- 何がよかったかわかるよう即時評価
- よさや価値を伝えられる認め
- 働きかけを段階的に減らしていく工夫

- ### 題材目標について
- それぞれの子どもを個別化する
 - 授業の評価・改善ができるよう、題材の最後の姿(到達像)の具体化する
 - 身につけたいことを焦点化する
 - 前単元や題材、または、日常生活で意欲的に取り組めた工夫を活用
 - 例:教材の仕組み、学習環境の工夫など
- ### 教材について
- 子どもに身につけてほしい知識及び技能、生活に生かせるような思考力・判断力・表現力をその教材で習得・育成できる?
 - 必要性を感じ、課題をもてる?
 - 主体的・対話的な活動は取り入れられる?
 - 絵、写真、ビデオなど具体物を使用するなどの工夫ができる?
 - 子どもが自分でルールを決めたり、役割を設定したりできる?
 - 子どもにとっての強化子はある?
- ### 題材計画について
- つまずきの原因分析から、できること・わかることが段階化されている?
 - 子どもへの学び取りの傾向から課題の引き受けや実施方法が検討・工夫されている?
 - 全体の計画と個別の計画がわかるようになっている?
- ### 【一次】
- 仕組みを理解したり、楽しさを感じたりできる?
 - 活動の意味やよさが十分理解できる?
- ### 【二次】
- 二次は確実な知識の習得
 - 子どもに到達してほしい頭の使い方がぶれていない?
 - 負荷がかかりすぎていない?
 - 支援が減る、問題の難易度が高まるなどしている?
 - 友だちと一緒に学ぶ場が計画されている?
 - 自分で考えた仕方や解決方法を生かせる仕組み?
- ### 【三次】
- できるようになったことを生かす場は設定されている?
- ### 学習環境について
- 活動の流れや量、しやすさを考えた道具材料の配置?
 - 不要な刺激は排除している?
 - 仕方や手順がわかりやすく伝えられる?
 - 成果が見てわかる?
 - 自分で仕方や手順を確かめられる?
 - 教具は、思考(わかる)を補助できる?
 - 教具は一人で使えるようになる?
 - 期待感(してみたい!)をもてる?
- ### 学習活動について
- 導入は課題理解、興味関心
 - 展開は知識習得のため、教具の理解や操作が適切?
 - 発展は定着、応用、工夫できる?
 - 終末は自己評価と次時への意欲
 - 目的や意味、よさがわかる?
 - 何をどのくらいどのようにするかわかる?
 - 課題は段階的に高まっている?
 - 間違いに気づいてやり直せる仕組み?
 - 学習の結果と目的がつながって達成感がもてる?
- ### 評価について
- めあてと指導はつながってる?
 - 文章・文法はわかりやすい?伝わる?
 - 不適切な表現はない?(難しい、できないなど)